



監督＝マーク・ウォータース／
 出演＝ジェイミー・リー・カー
 ティス／リンゼイ・ローハン／
 マーク・ハーモン（ブエナ ビ
 スタ インターナショナル〈ジ
 ャパン〉 配給／2003年アメリカ
 映画／97分）

几帳面で完璧な母親と、朝寝坊でヘソ出しルックの15歳の娘の身体だけが入れ替わったら……？ そんなケツタイな仮説がフォーチュン・クッキー（おみくじクッキー）によって実現した。さあ大変。母親の結婚式のリハーサルと、娘のロックバンドのオーディションは一体どうなるのやら……？ ドタバタ劇ながらも、最後は楽しいノリで、胸キュンの佳作だ。

♣️ 主人公はママと娘の2人

この映画の2人の主人公は、ママのテス・コールマン（ジェイミー・リー・カーティス）とその15歳の娘、アンナ・コールマン（リンゼイ・ローハン）。この2人の価値と出番は完全に同一。なぜなら、ほとんどの画面に2人が揃って出ているから。もっともテスも1人2役、アンナも1人2役と言った方がいいかもしれない。なぜなら、最初のストーリーで2人の人物像が見せられた後、突然2人の身体だけが入れ替わるのだから。

♣️ ソリの合わない主人公たち

テスは几帳面で何でも完璧にこなす精神科医。夫の死亡後、娘アンナとその弟ハリー（ライアン・マルガリーニ）の2人を育てながら、今やっとならぬライアン（マーク・ハーモン）との再婚という幸せをかみしめていた。ところが、娘のアンナは朝寝坊で、学校ではいつも懲罰室行き。そしてヘソ出しルックにピアス、好き

なのはロックバンド、と何から何まで今どきの女の子で、母親とは正反対。こんな2人のソリが合うはずがない。

テスが弟のハリーばかりを可愛がるとアンナはひがんで(?)ハリーともケンカばかり。自分の部屋への「立入禁止!」をテスに宣言するほど、母娘の断絶(?)は深刻だ。

マジックの仕掛け人は?

2人の身体だけを入れ替えるという「マジック」を仕掛けたのは、中華レストランのオーナーの母親。母と娘が店内で大ゲンカ(といっても口ゲンカだけだが、何ともそれがウルサイ)しているのを見て、このオバさんがフォーチュン・クッキー(おみくじクッキー)を2人に渡したことにより、チャイニーズマジックが……。翌朝、目を覚ますと何と2人の身体だけが入れ替わっていた……。

こりゃ大変。だって、ママのテスは、明日恋人のライアンとの結婚式のリハーサルを控えていたし、アンナにはロックバンドのオーディション出場のチャンスが控えていたのだから。

なぜアメリカの家庭はキレないのか?

これほど、母娘の断絶があり、いつも口ゲンカばかり繰り返している2人だが、なぜか日本で最近多い、少年非行のような問題にはならない。私が思うにこれは、あくまで2人の「話し合い」が続くことと、最終的には子供は親に従うというルールがアメリカ社会ではまだ貫かれているためだ。

日本の家庭なら、ここまでケンカすれば、娘はすぐに家出をして、1人東京へ行き……。挙げ句の果てに補導されたり、風俗嬢に身を落としたりというお話があってもおかしくない。

しかしアメリカではこのようにいくら母娘ゲンカをしても、意外と子供のしつけがきびしく、そのワクからははみ出さないことがよくわかる。

入れ替わった2人は超大変!

このように、性格も、価値観も、しゃべり方も、そしてもちろん男の好みも全

然違う2人の身体だけが入れ替わったのだから、そりゃ大変。映画は、ここから急にドタバタ喜劇(?)となるが、そのドタバタぶりが結構面白い。さまざまなエピソードをうまく散りばめながら、2人の困惑はしだいに頂点に……。すなわち、テストにはいよいよ結婚式のリハーサルの日が、アンナにはロックバンドのオーディションの本番の日が近づいていた……。

実は弟もアンナが好き！ そしてライアンも……。

アンナは、テストが弟ばかり可愛がるため、いつも弟とケンカしていた。しかし、身体が入れ替わったアンナが母親の姿で、弟の作文を読むと、「僕はお姉ちゃんとケンカできることが楽しい。お姉ちゃんが大好き！」と書いてあった。

また、アンナはテストが結婚しようとしているライアンが大キライ。そりゃ、大好きだった父親が死亡してまだ数年しか経っていないのに、母親から再婚すると言われた娘が、すぐに新しい父親となる人を好きになれないのは当然。しかし、テストの身体に入れ替わったアンナは、ライアンがアンナを愛しているテストを愛していることを知ることに……。

お互いに身体が入れ替わったことによって、それまでは見えなかった相手の気持や大切な人たちの気持が見えてきたというわけだ。

アンナとジェイクの恋か、それともテストとジェイクの恋か？

アンナに好意を示していたカッコいい男の子のジェイク（チャド・マイケル・マーレイ）も、音楽大好き人間。ジェイクは最初はアンナのロック好きに意気投合していたものの、身体の入れ替わったアンナを見ていると、えらく堅いばかりで面白くない。

それよりも、オバさんだが、アンナの母親のテストの方が音楽の趣味は合うし、フィーリングが合うということで、若いジェイクは、突然オバさんの姿となっているアンナに真面目に惚れてきたから話がややこしい。

これを書いている私の頭もややこしくなっているので、これ以上はヤメ。とにかく、母娘の身体だけが入れ替わるということは、いろいろとややこしいことになるということだ。

どうやればマジックは解けるのか？

テスとアンナの2人は、身体が入れ替わった翌日、中華レストランへ行き、身体を元どおりに戻せと要求したものの、それは2人の気持次第、すなわち2人の気持が一致した時に元に戻れると言われてしまった。さて、2人は困った。困りながら、前述のドタバタ劇の連続となったわけだ。

結構感動的なハッピーエンド！

ドタバタ劇が続く中でのハイライト場面は、平等に1人に1つずつ。

1つはアンナのロックバンドのオーディション。テスの身体に入れ替わったアンナの協力によって見事にこれが成功。すると次は……？

それはもちろん、テスの結婚式のリハーサル。そしてこれは、アンナに入れ替わったテスの感動的なスピーチによって大成功。すると、ここで驚くべきマジックが……？

マンガみたいなお話だが、結構これが感動的！

ロックバンドはGOOD!!

アンナのロックバンドは、友人の女の子2人と男性2人の合計5人。アンナはギターとボーカルを担当だが、これが15歳の女の子の趣味の世界とは思えないほどすばらしいもの（もっとも映画だから当然だが……）。オーディションでの演奏もなかなかのものだが、ガレージでの練習シーンや最後の結婚式のお祝いシーンでも見事なもの。

私の大好きだった女性だけのロックバンド「プリンセス・プリンセス」ほどではないにしても、結構、ノリノリになれるいいものだ。楽しいノリで十分楽しめるキュートな作品で大満足……。

2004(平成16)年3月11日記